

## 令和5年度第2回下野市社会教育委員会議 議事録

審議会等名 令和5年度第2回下野市社会教育委員会議  
日 時 令和5年7月6日（木）午前10時00分から12時00分まで  
会 場 南河内東公民館2階 学習室  
出席者 五月女洪委員長、花澤公久副委員長、秋山貴子委員、青木ムツミ委員、大塩宗里委員、水田あけみ委員、ジヴニーかおり委員、菅井貞雄委員、小島恒夫委員、石川知子委員、増渕晴美委員

【欠席委員】石田節男委員、小林勉委員

事務局 生涯学習文化課 橋本幸昌主幹、大塚隆邦主査、山中裕貴主査

【欠席】根本宣明課長

公開・非公開の別 (  公開  一部公開  非公開 )

傍聴人 なし

報道機関 なし

議事録（概要）作成年月日 令和5年10月6日（金）

### 【協議事項等】

#### 1. 開会（橋本主幹）

#### 2. 委員長あいさつ

（五月女委員長）おはようございます。

#### 3. 議題

（根本課長）これより議事の進行は、社会教育委員会議規則第3条第1項に基づき、委員長にお願いする。

#### （1）令和5年度下野市社会教育関係団体への補助金の交付について

（五月女委員長）事務局より説明を求める。

（事務局）資料1に基づき説明。

（五月女委員長）皆さんから意見あるか。

（水田委員）石子連は解散したとのことであるが、石子連が再開する可能性はあるか。

（事務局）従来の形そのままでの再開はないと思われる。市としては、市全域において、体験学習のできる機会は必要と考える。石子連のほか市子連においても、役員の負担が大きいとの意見が出ていたようなので、市子連運営においては配慮する必要があると考える。

（水田委員）自治会と子ども会育成会との連携がしづらい状況。地域の行事も考えなければならない。子どもの体験格差の機会を奪わないでほしい。小さいときから地域との関わり方をつくれるよう率先して取り組んでほしいと、市子連に伝えてほしい。

（五月女委員長）地域の行事が衰退している。声をかける場がない。

（菅井委員）組織がなくなったら、夏祭りなどの地域の伝統行事の参加呼びかけ先がなくなってしまふ。一旦とぎれると、再開することは大変で、地域の伝統もなくなってしまふ。子

どもたちに体験させたい。

- (五月女委員長) 老人会も同様の課題を抱えていると思う。役員のなり手が減っている。
- (花澤副委員長) 役員の負担が大きいとの指摘があったが、子どもの人数も減っている中、役員の人数が多いことも問題である。市子連だけの話ではないと思う。しかし最終的には子どもが犠牲になってしまう。組織を支えないと考えていかないと本末転倒になる。
- (五月女委員長) 今までとは違った運営を検討しなければならないだろう。
- (小島委員) 存続してほしいが、ボランティアで担うことは難しい時代とも思う。
- (増淵委員) どの地域も同じ悩みを抱えている。子どもを核として地域を盛り上げたい。参加して楽しい時間を過ごせるよう形を変えている。子ども会育成会組織は残してほしい。
- (五月女委員長) 色々意見出たが、社会教育関係団体である市子連への補助金交付に対しての意見は以上でよろしいか。

#### <異議なし>

#### (2) 教育委員会への提言について

- (五月女委員長) 次に、(2) 教育委員会への提言について、事務局より説明を求める。
- (事務局) 資料2に基づき説明。
- (五月女委員長) 委員から意見等あるか。
- (石川委員) 社会教育施設と他施設の連携が本日のテーマとのことで、市民活動センターだよりも配付されているが、市民活動センターの民間運営の動きはあるか。他自治体では NPO など民間による運営がなされている。
- (事務局) 指定管理による運営移行に向けて動いていると聞いている。
- (小島委員) 生涯学習情報センターは南河内公民館内に移転したが、役割や機能について、市民活動センターとの違いがわかりづらい。情報発信が不十分と感じる。
- (事務局) 生涯学習情報センターと市民活動センターの関係について今後整理検討していきたい。
- (五月女委員長) 連携の下地となる情報発信について、生涯学習情報センターには独自のホームページがないが、これで生涯学習の情報は発信できるのか疑問である。一方、図書館は独自のホームページがあり、SNS での情報発信もなされている。
- (石川委員) 従前生涯学習情報センターが運営していた「ゆうがおネット」を、市民活動センターが引き継いでいる。
- (青木委員) 公民館に独自のホームページがないことに驚いた。図書館では指定管理移行前から図書館協議会で協議し、独自のホームページを開設し、情報発信に力を入れている。
- (小島委員) 公民館の情報発信のデジタル化については、早急に対応してほしい。
- (花澤副委員長) 予算の裏付けも必要かと思う。
- (事務局) 現在、公民館に関する情報発信においては、市役所共通のホームページを利用している。新たな予算は必ずしも必要ではない。
- (ジヴニー委員) 生涯学習情報センターと市民活動センターが一緒になった方が、利用者が使いやすくなると思う。

- (五月女委員長) 公民館とコミュニティセンターの連携に関して、委員から意見等あるか。
- (増 淵 委 員) 高齢者の中には遠くへ移動することが困難な方もいるので、公民館の出張講座を行ってもよい。
- (小 島 委 員) スマホ講座のニーズは高い。定期的を開催すれば、高齢者のコミュニティにも役立つ。
- (水 田 委 員) 施設としてのコミュニティセンターは多様である。老朽化した施設もある。
- (菅 井 委 員) 公民館サークルの練習場所として、コミュニティセンターを利用されているところもある。現状では、公民館の部屋は公共施設予約システムで予約できるが、コミュニティセンターはできないが、コミュニティセンターも同じシステムに入れたほうが利用者にとって利便性が高まる。
- (五月女委員長) 社会教育を充実させるためには、地域を活性化する人材を育成する必要がある。学校との連携について委員から意見等あるか。市内では地域学校協働活動推進員として3名が活動している。
- (石 川 委 員) 学校運営委員会に出席した際は会議の最後に講評をされていたが、どのような役割を担っているのか解らない。
- (大 塩 委 員) 地域学校協働活動推進員や地域連携教員、地域コーディネーターなどの役割が複雑でわかりづらい。
- (花澤副委員長) それぞれどのような任務を担えばよいか、わかりづらいのではないか。
- (秋 山 委 員) 地域連携教員は県独自の仕組みで、学校と地域の連携における学校側の窓口。例えば、教員からの要望があった際の地域との調整役である。地域学校協働推進員は地域側の窓口となってもらいたいと学校では考えている。地域コーディネーターがいれば、学校側のニーズに応じた地域の協力者を探してくれるものと思うが、本市には地域コーディネーターが中々いないので、その代わりを担うのが地域学校協働活動推進員や生涯学習情報センターだと、学校では理解している。一方、現状では市民活動センターと学校の関わりは少ない。地域学校協働活動推進員の仕組みや「顔」を、広報紙等でもっと地域に広めていくなど情報発信の充実を提言に盛り込んでいただきたい。地域学校協働活動推進員という名称は長いので覚えられないとの声も聞く。
- (水 田 委 員) ふれあい学習推進委員会という組織もある。
- (花 澤 委 員) 地域コーディネーターのなり手が少ないという実態について解った。そうすると、地域学校協働活動推進員3名では学校数、生徒数からすると、期待されている活動が十分にできないのではないかと感じる。
- (五月女委員長) 制度や役割が複雑で、もう少し簡素化できないか。
- (石 川 委 員) 平成19年に生涯学習情報センターが開館した当時、名称はともかく、市民活動センターの役割を担うとの思いで立ち上げた。いずれは一本化するものと理解していた。センター長が再任用ポストになって以降、次第に業務内容や範囲が先細りしているように感じる。
- (五月女委員長) 時間が迫ってきたところであるが、他に委員からあるか。

<発言なし>

(五月女委員長) それでは、以上で議事は全て終了した。進行を事務局へお返しする。

#### 4. その他

(橋本主幹) 次第「その他」について、事務局より説明願う。

(事務局) 次回の会議日程は、10月上旬を予定している。日程が決まり次第、通知させていただく。

#### 5. 閉会 (橋本主幹)